

# 浪江町の現状・課題

平成29年7月  
福島県浪江町

# ふるさと浪江町

海と山と川に囲まれ、自然に恵まれたまち  
 歴史と伝統を大切にするまち  
 資源を生かした、にぎわいのあるまち

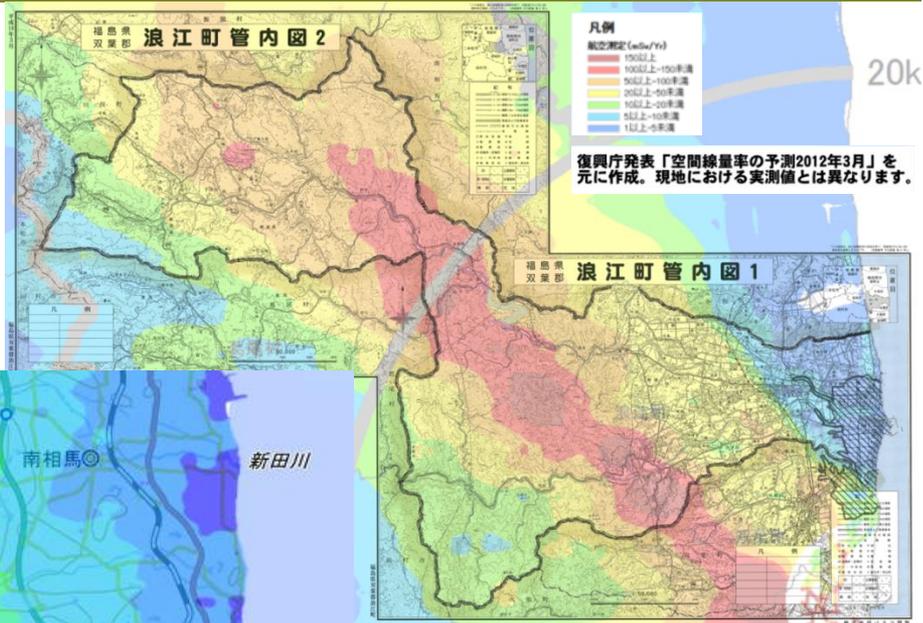


震災時人口	21,434人 (このほか外国人108人)
世帯数	7,671世帯
面積	223.14km <sup>2</sup>

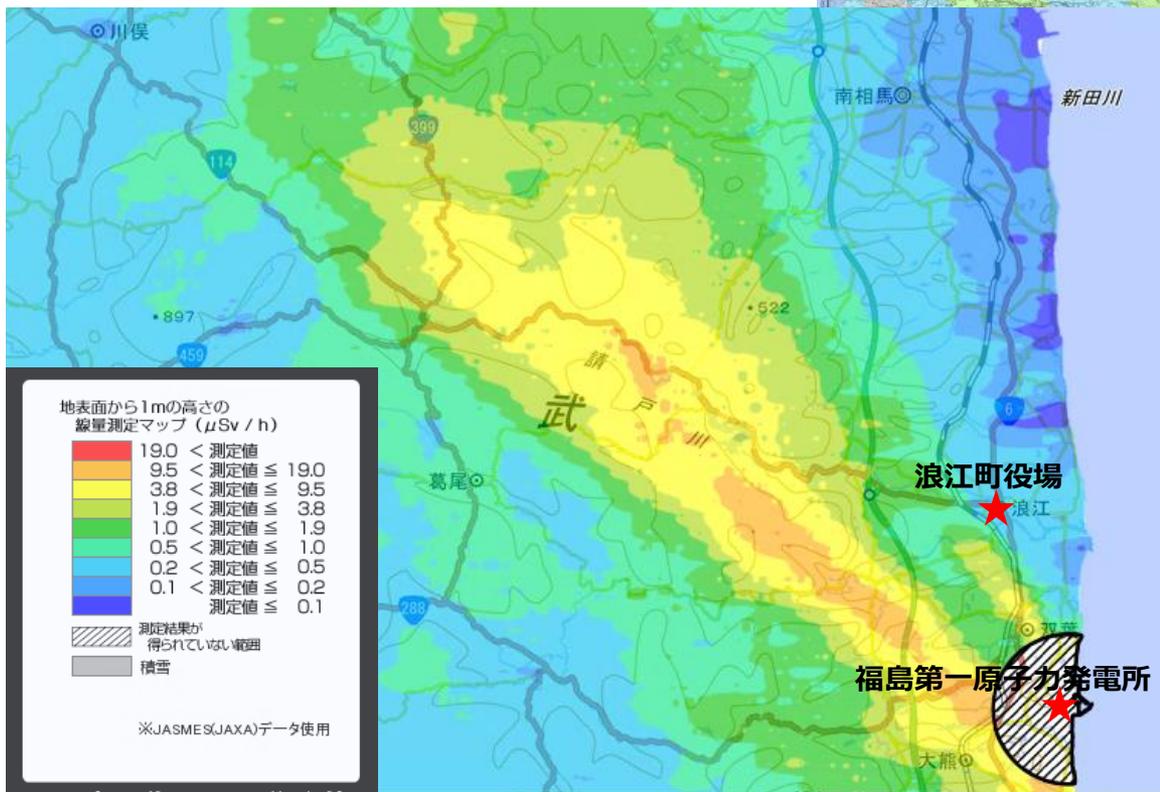


# 空間放射線量の分布

平成24年3月時点



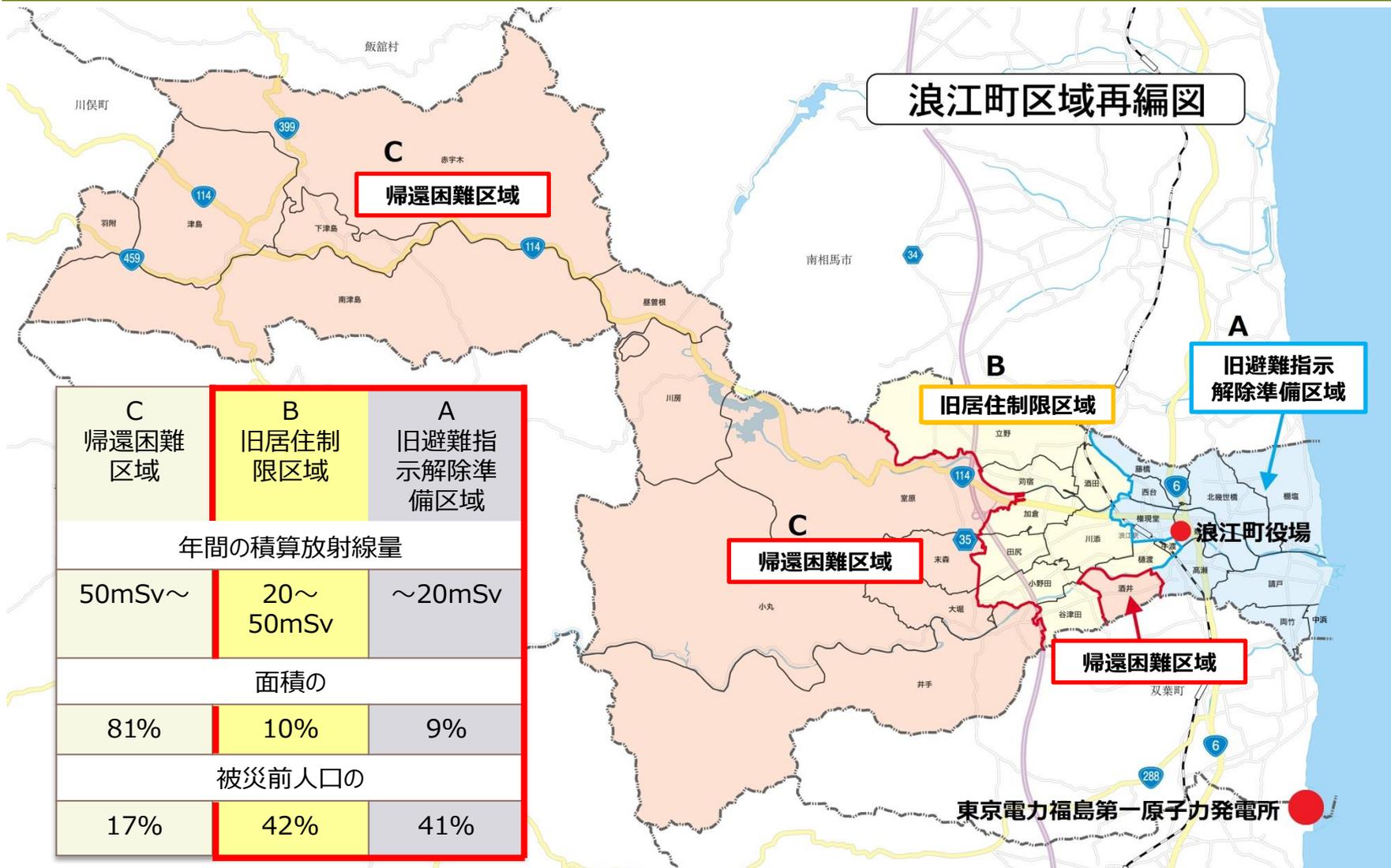
平成28年11月18日時点



空間放射線量予測  
復興庁発表「空間線量率の予測  
2012年3月」を元に作成

「放射線量等分布マップ拡大サイト」から出典  
<http://ramap.jmc.or.jp/map>

# 放射線量による区域指定(平成29年3月31日～)



平成29年3月31日に避難指示解除

# 復旧・復興の道すじ

平成28年9月の「特例宿泊」、11月からの「準備宿泊」を経て、  
**平成29年3月31日に避難指示を解除（帰還困難区域を除く）**

## 人口・世帯の状況

(平成29年5月31日現在)

男	8,877人	居住人口等	234人
女	9,379人		165世帯
計	18,256人	(6,590世帯)	

	発災～ 平成26年3月 緊急復旧期	平成26年4月～ 平成29年3月 復旧実現期	平成29年4月～ 平成33年3月 本格復興期
《人の復興》 全町民の 暮らしの再建	避難生活の 早急な改善	全町民の生活安定を実現 県外・県内各地域居住者への継 続的な支援など	<b>全町民の幸せな暮らしの 実現</b>
《町の復興》 ふるさと なみえの再生	ふるさとの再生 に着手	ふるさとの再生を本格化 除染やインフラ復旧の本格実施、 町内での復興拠点への住宅・生 活関連サービスの集約整備など	<b>ふるさとの再生を実現</b>

# 復興の歩み (1) 除染・災害廃棄物の処理

- ▽ 平成24年11月に環境省が除染実施計画策定
- ▽ 平成25年11月から本格除染開始
- ▽ 平成29年3月津波被災地を除く避難指示解除準備区域及び居住制限区域での除染作業完了
- ▽ フォローアップ除染の実施
- ▽ 災害廃棄物（がれき等）の総量は28.9万トン
  - 沿岸部の災害廃棄物の撤去完了（仮置場に保管）
  - 被災建物は順次解体・撤去中



これらのうち、リサイクル不能の可燃物を仮設焼却施設で減容化中、平成29年度中に処理完了見込み

# 復興の歩み (3) 産業の再興 > 第二次・第三次産業

▽被災前の事業所（約1,000）は被災によりすべてが一時営業中止

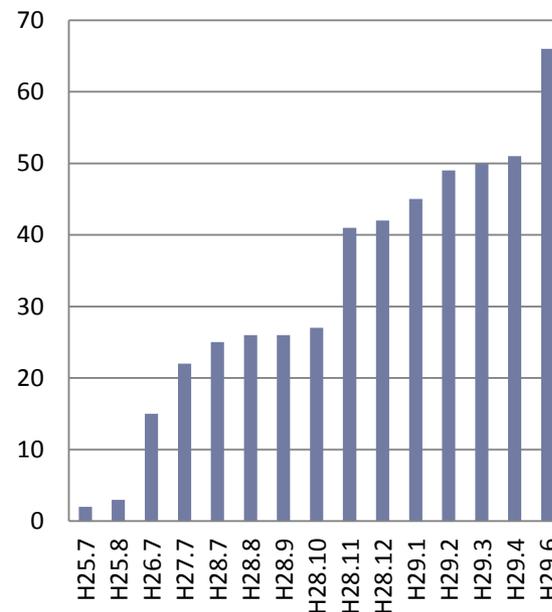


平成25年7月、2事業者が町内で初めて事業再開、平成29年6月現在、66事業所が町内で営業中

▽役場敷地内に仮設商業施設（10店舗）平成28年10月オープン

▽企業誘致：南（大平山）・北（北幾世橋）の産業団地の整備基本計画を策定中

町内での再開事業者数



## 復興の歩み (4) 産業の再興 > 第一次産業

### ▽農業

- ・ 水稲：平成26年より実証栽培を開始、全量全袋検査ですべて基準値以下  
平成27年より販売を開始
- ・ 花卉：平成26年より実証栽培を開始、トルコギキョウやリンドウを市場出荷
- ・ 19行政区で13復興組合が活動中

### ▽漁業

- ・ 請戸漁港へ平成29年2月に漁船が帰還  
(漁港全体の災害復旧は平成30年度に完了予定)
- ・ 相馬双葉漁協は魚種・漁場を限定した試験操業中



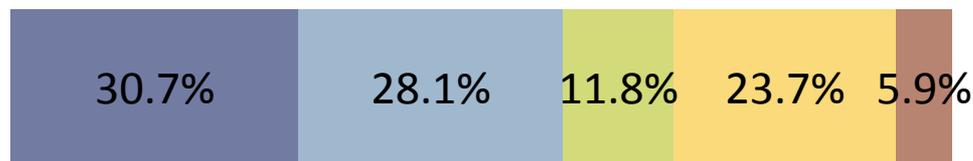
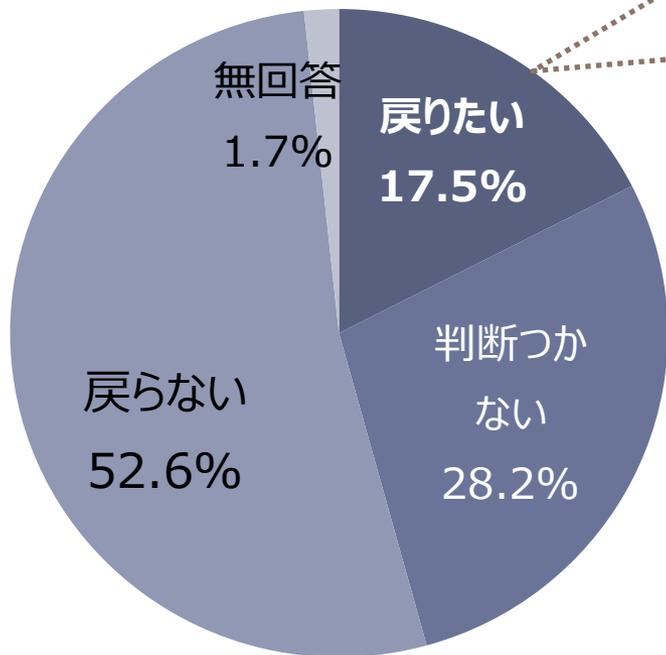
花のまち  
実現化事業



新しい水産業  
のデザイン  
実現化事業

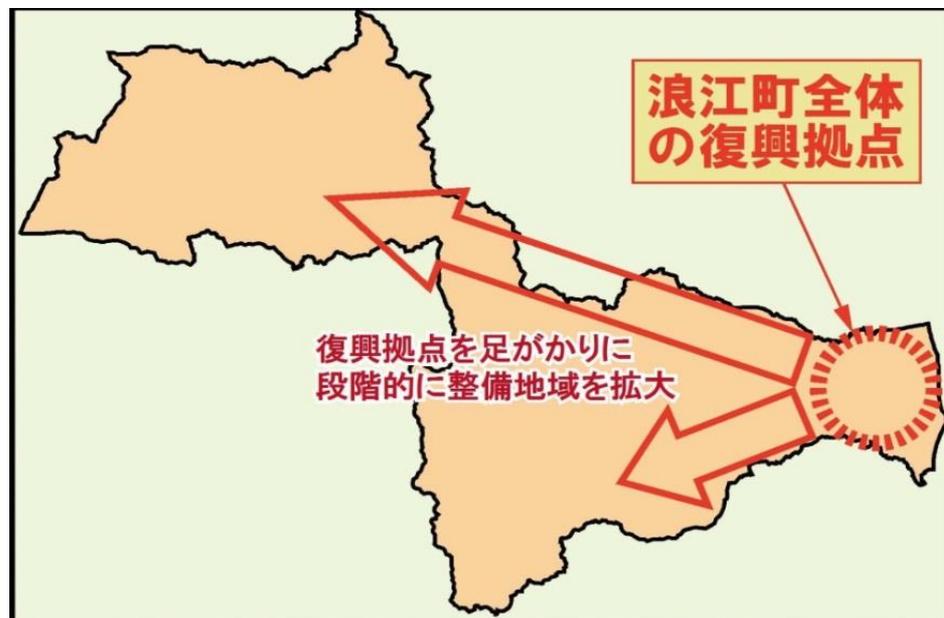
# 復興まちづくりの考え方

## 避難指示解除後の帰還意向

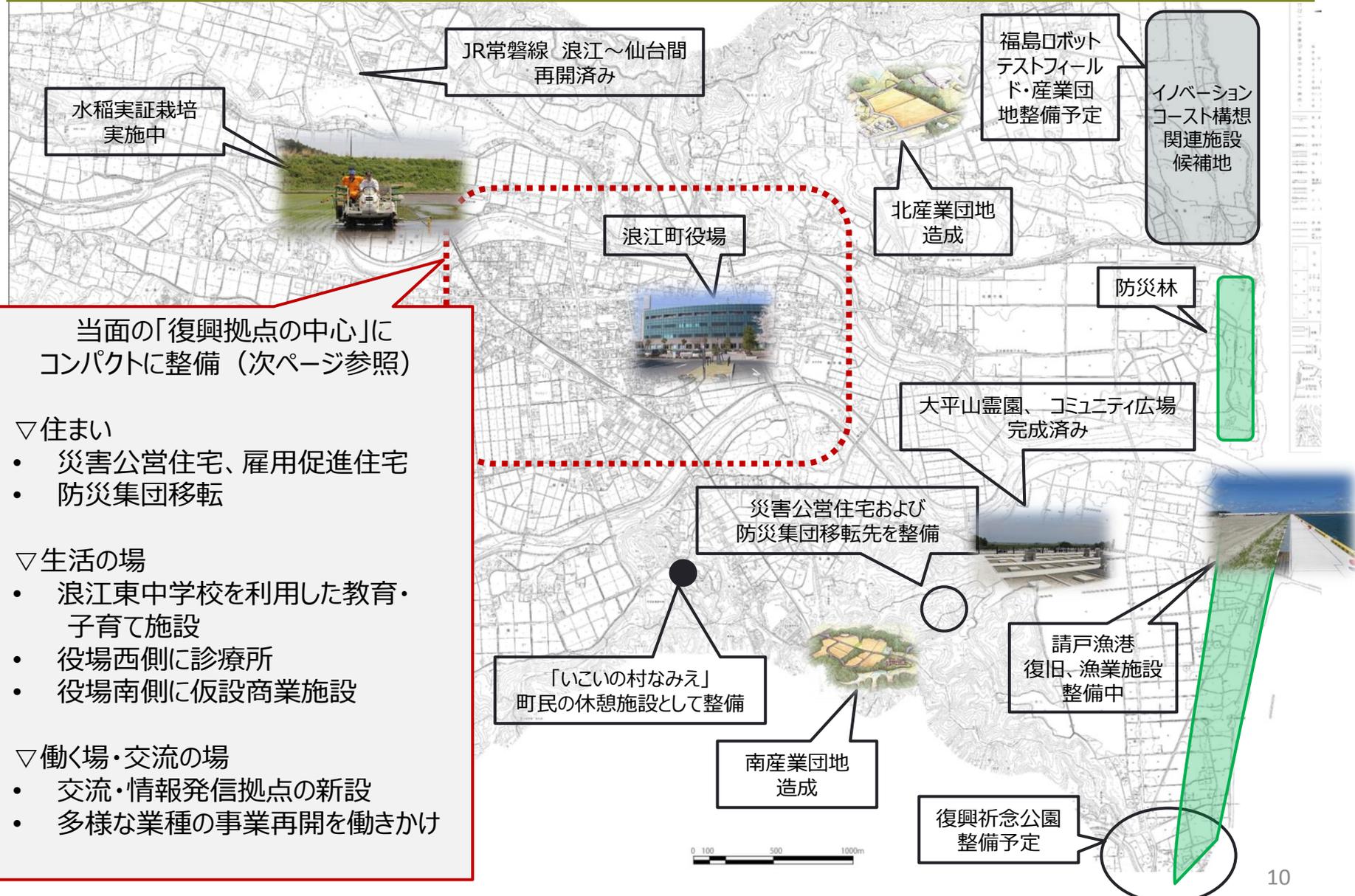


### 調査の概要

- ・調査対象 世帯の代表者 9,087世帯
- ・調査時期 平成28年9月
- ・回収数 4,867世帯
- ・回収率 53.6% (前年度59.5%)



# 復興まちづくり(復興の核となるエリア)の現状



水稻実証栽培  
実施中

JR常磐線 浪江～仙台間  
再開済み

福島ロボット  
テストフィールド・産業団  
地整備予定

イノベーション  
コースト構想  
関連施設  
候補地

浪江町役場

北産業団地  
造成

防災林

大平山霊園、コミュニティ広場  
完成済み

災害公営住宅および  
防災集団移転先を整備

「いこいの村なみえ」  
町民の休憩施設として整備

南産業団地  
造成

請戸漁港  
復旧、漁業施設  
整備中

復興祈念公園  
整備予定

- 当面の「復興拠点の中心」にコンパクトに整備（次ページ参照）
- ▽住まい
    - 災害公営住宅、雇用促進住宅
    - 防災集団移転
  - ▽生活の場
    - 浪江東中学校を利用した教育・子育て施設
    - 役場西側に診療所
    - 役場南側に仮設商業施設
  - ▽働く場・交流の場
    - 交流・情報発信拠点の新設
    - 多様な業種の事業再開を働きかけ

## 復興まちづくりの目指す姿 > 双葉郡北部の復興拠点を担う

- ✓ 原子力に依存しない、エネルギー地産地消のまちづくり
  - ・ 再エネを活用し、少ない電力を効率的に利用（スマートコミュニティ）
- ✓ 新しい農林水産業のデザイン
  - ・ 先端技術を活用した花卉栽培や施設園芸の導入
  - ・ ITなどを活用した新しい農業スタイルの実証 …など
- ✓ ロボット産業技術を活用した雇用創出  
(国の「イノベーション・コースト構想」によるドローン発着場建設決定)
  - ・ ドローン（小型無人機）を使った有害鳥獣の監視
  - ・ ロボットによる防犯体制の構築
  - ・ 自動走行する公共交通機関 …など

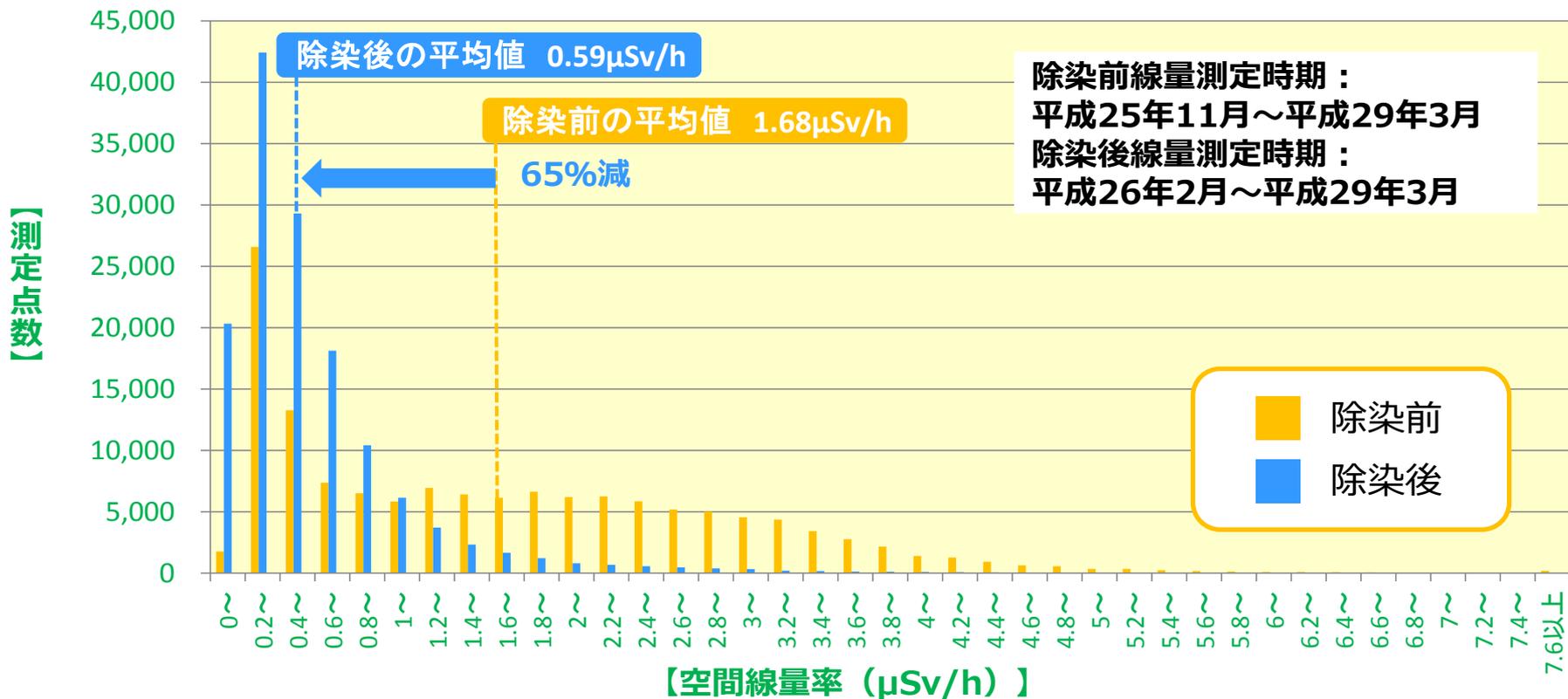


「イノベーション・コースト構想」とも融合するまちづくりを通して  
**双葉郡全体の復興に寄与します**

# 除染の効果 ～ 線量ヒストグラム ～

- 対象地域全体で、空間線量率1mが平均65%低減しました。

## 【空間線量率1m 線量ヒストグラム】



※データは確定前の速報値ですので、後日修正されることがあります

※放射線量は、除染作業の前後で測定したものであり、その後の自然減衰等は含まれていません

※大地（大気を含む）の自然放射性核種からの放射線（福島県平均約0.04 $\mu$ Sv/h）の影響も含まれています

参考文献：新版 生活環境放射線（国民線量の算定）＜H23年12月 第2版＞

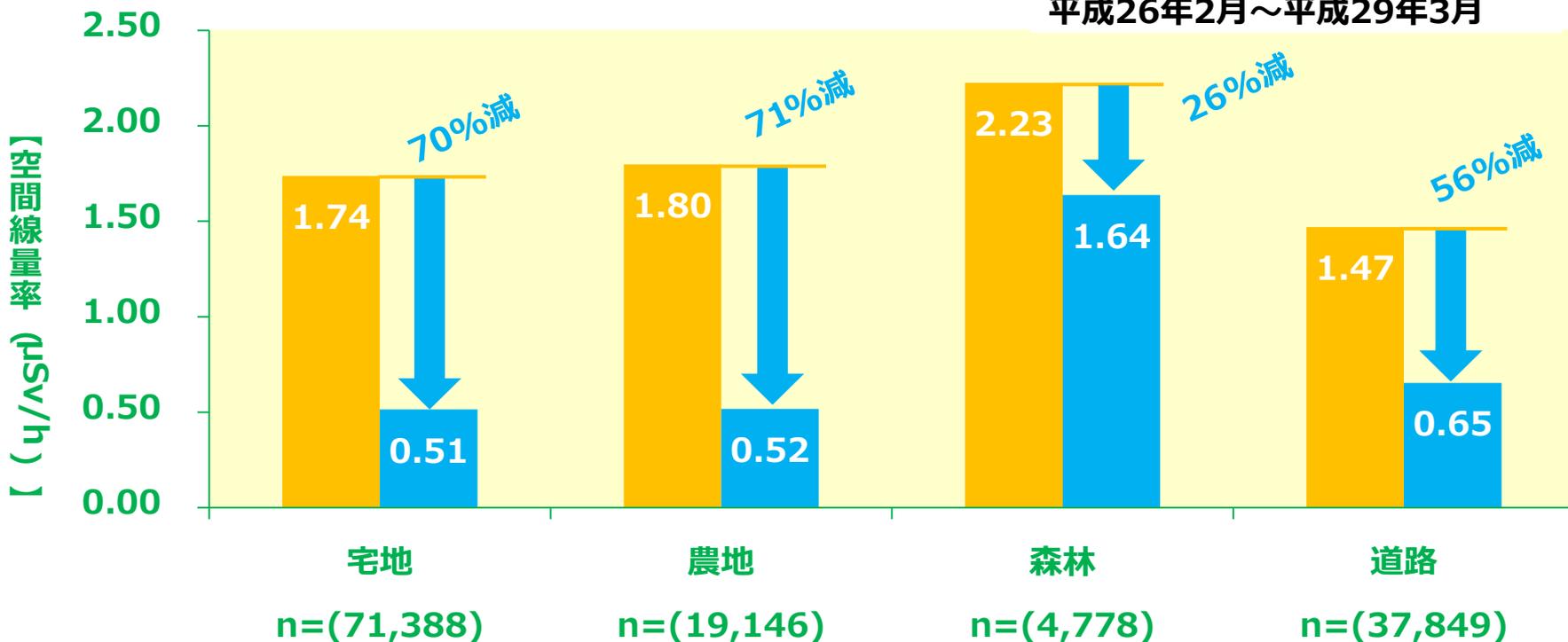
※定点測定とは別に、個別に対応している局所的に線量の高い箇所等の数値は除きます

# 除染の効果 ～ 除染対象別遞減率 ～

- 除染作業により、例えば宅地では空間線量率1mが平均70%低減しました。

【空間線量率1m 除染対象別低減率】

除染前線量測定時期：  
平成25年11月～平成29年3月  
除染後線量測定時期：  
平成26年2月～平成29年3月



※データは確定前の速報値ですので、後日修正されることがあります

※放射線量は、除染作業の前後で測定したものであり、その後の自然減衰等は含まれていません

※大地（大気を含む）の自然放射性核種からの放射線（福島県平均約0.04μSv/h）の影響も含まれています

参考文献：新版 生活環境放射線（国民線量の算定）＜H23年12月 第2版＞

※定点測定とは別に、個別に対応している局所的に線量の高い箇所等の数値は除きます

# 浪江町除染検証委員会

## 目的

浪江町では国の直轄除染により町内の除染作業を進めているが、この除染作業に対し、町民より不安の声が多数寄せられている状況となっている。このことより、浪江町では、除染作業等に対する町民への不安解消へとつなげることを目的とした、有識者による第三者機関「浪江町除染検証委員会」を設立及び発足することとした。

## 委員構成

氏名	所属、役職等
石田 順一郎	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 上席嘱託 ※福島県除染アドバイザー
井上 正	財団法人電力中央研究所 名誉研究アドバイザー(名誉研究顧問) ※福島県除染アドバイザー
塚田 祥文	福島大学 環境放射能研究所 副所長
床次 眞司	弘前大学被ばく医療総合研究所教授 ※浪江町「避難指示解除に関する有識者検証委員会」委員

第1回の検証委員会の様子



検証委員会時住民との現地確認の様子



検証結果報告書提出の様子



# 平成28年度浪江町除染検証委員会検証結果報告書

## 主な検証事項

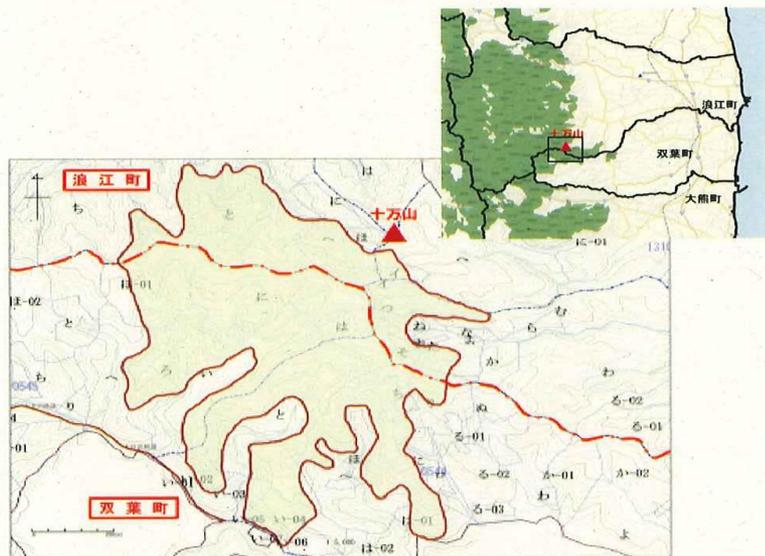
河川、水源等	生活圏と隣接する水路、河川河川敷、ため池
大柿ダム	農業用水への不安
森林	囲い木、竹林、里山
粉じん	解体家屋、山林等からの粉じん
帰還困難区域とのキワの除染	帰還困難区域に隣接する宅地等
土壌汚染	土壌調査の手法、効果

# 十万山林野火災

## 福島県浪江町・双葉町国有林火災について

### 林野火災の概況

- 火災場所：浪江町 沢山国有林  
双葉町 七日澤国有林
- 発生日時：平成29年4月29日(土)16:24
- 鎮圧日時：平成29年5月 6日(土)18:10
- 鎮火日時：平成29年5月10日(水)15:05
  
- 焼失面積：約75ha(うち双葉町約53ha、浪江町約22ha)
- 森林資源の現状：アカマツ約45ha、スギ・ヒノキ約5ha、その他約25ha



### 火災跡地の実態調査

- 調査目的：火災跡地における森林内の空間線量率や放射性セシウム濃度の把握
- 調査月日：平成29年5月17日(水)～18日(木)
- 調査体制：林野庁、復興庁、環境省、(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所、福島県、浪江町、双葉町、双葉地方広域消防本部
  
- 調査項目等：
  - ・空間線量率  
シンチレーション式サーベイメータにより地上1m及び5cm地点で測定
  - ・樹皮の放射性物質濃度等  
樹皮(地上約1m、高さ方向5cm×水平方向10cm)を試料として採取
  - ・落葉層の放射性物質濃度等  
19cm×19cmの枠内の落葉層(堆積有機物)を採取
  - ・土壌の放射性物質濃度等  
落葉層直下の土壌を土壌用試料円筒(高さ19cm 容積100mL)で採取
  - ・土壌流出の危険性
  - ・森林の被害状況
  
- 調査結果：
  - ・空間線量率は概ね0.8～1.2  $\mu$ Sv/hとなり燃焼区域内外で明確な差はなし。
  - ・その他については、現在、専門家の協力を得て分析中。取りまとめ次第、公表予定。

(空間線量率の測定)



(樹皮の採取)



(落葉層の採取)



(土壌の採取)



平成29年6月23日に林野庁にて調査結果を公表。見解として「今回の調査では、土壌や落葉層等とともに放射性物質が流出する可能性は低い」と示している。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/gyoumu/170623.html>

# 十萬山林野火災時の周辺大気浮遊じん(ダスト)測定結果

## やすらぎ荘(浪江町)

採取日	時間	測定結果(Cs134)	測定結果(Cs137)
H29.5.7	10:15~13:08	ND	1.11
H29.5.8	10:17~13:00	ND	3.59
H29.5.9	10:47~13:58	ND	1.32

## 石熊公民館(双葉町)

採取日	時間	測定結果(Cs134)	測定結果(Cs137)
H29.5.7	11:32~13:50	ND	0.85
H29.5.8	10:57~13:42	1.27	7.63
H29.5.9	11:49~14:57	ND	1.02

## 野上一区地区集会所(富岡町)

採取日	時間	測定結果(Cs134)	測定結果(Cs137)
H29.5.7	11:56~14:25	ND	0.35
H29.5.8	11:43~14:20	0.37	1.35
H29.5.9	12:33~15:49	ND	0.31



帰町意欲への  
影響懸念

# 町による取組み

## 町の取組紹介

- Dシャトルの貸与
- 放射線相談窓口の開設(原子力安全研究協会より職員派遣)
- ガンマカメラ撮影による除染後のチェック
- 除染検証委員会の継続開催
- 国、施工業者を交えた除染定例会義の開催
- JAEAとの連携した不安対策
- ダストサンプリングの実施

Dシャトル



ガンマカメラ撮影



ダストサンプリング用機器

